

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1989号 2009年10月13日(火)

《 changing environment for the dollar 》

日本が連休の間にドル・円相場は90円の47銭見当までドル高・円安となりましたが、「短期的なドルの反騰」という以上に大きくは二つの背景があったと思われる。

一つはドル安に堪忍袋の緒を切らせて、先週の主に木曜日を中心に韓国、台湾、フィリピン、タイ、インドネシアなどの国が外国為替市場でドル安・自国通貨高を阻止するための介入を実施したこと。二つ目はアメリカの中央銀行が具体的なドル安阻止の動きを見せることはなかったものの、アメリカ国内にもドル安に警告する、主に政治的な意見が強まっていることが明らかになったこと、である。

アジア各国中央銀行による外国為替市場介入の規模は発表されていない。多分先進各国が協調介入するケースよりも規模は小さいだろう。しかしこの介入は、当該アジア各国が真剣にドル安・自国通貨高を自国経済に対する脅威だと考えていることを示している。これら各国は、今後もドル安と自国通貨高が進んだ場合には介入を実施してくる可能性がある。

ドル安に対する警戒を強めているのはアジア諸国だけではない。欧州ではユーロ高が輸出に及ぼす影響を懸念して、トリシェ ECB 総裁が先週木曜日に「The stated U.S. "strong-dollar policy" is extremely important in the present circumstances.」と述べている。つまりアメリカに対して、「口で言っている通り“強いドル”に配慮しろ」と言っているのである。

実は「強いドル」を求める政治的動きは、アメリカ国内でも高まりを見せている。先週木曜日に読んだFTには「Obama comes under fire as falling dollar gives critics fresh ammunition」という見出しの記事があり、元副大統領候補であるサラ・ペーリンという懐かしい名前も登場して、写真も大きな記事だっただけに目立った。

それによると、筆者は今まであまり気が付かなかったのですが、最近のドル安はアメリカに於けるオバマ批判勢力（主に共和党筋ですが）の格好の攻撃材料になっているという。やれ「ドルが準備通貨の地位を失う」「ドル安はアメリカの弱さの象徴」など。この記事は、「実はドル安歓迎」と見られていたアメリカ国内の空気も変わりつつあることを印象づけた。

もっともFTの貿易加重平均でのドル相場の推移を見ると、ドルの現状の水準は一年前とあまり変わっていない。その間ドルは「高リスク時の避難通貨」だった時期もあって、むしろドルが高値推移した時期もあったからだ。このFTの記事に出てくるガイトナー財務長官の発言は、私の記憶の中ではもっとも強い調子のものだ。具体的には、

「It's very important to the United States that we continue to have a strong dollar....We're going to do everything necessary to make sure we sustain confidence."」

しかしこのガイトナー発言は最大限のリップサービスと考える人が多く、一般的にはアメリカのドルに対する姿勢は「a trend that the Obama administration has publicly suggested it opposes -- but which it appears prepared to tolerate quietly.」(ウォール・ストリート・ジャーナルの表現)と見られている。ここで言う「a trend」というのは「ドル安」を指す。実際の処、ドル安は「もう内需にはあまり頼れない」(G7後のガイトナー発言)としているアメリカにとって、輸出を伸ばせる環境としては良いし、実際にアメリカの輸出はドル安を背景に伸びている。

アメリカの市場環境も「ドル安歓迎」のように見える。株価はドル安を好感して上がっているように見えるし、アメリカには今のところドル安がもたらしうる輸入インフレの兆しもない。アメリカはドル安阻止には具体的理由がなければ動かない傾向があるから、今のところはドル安をオバマ政権が具体的に止めに入りうる背景としては、「ドル安を政権攻撃材料にしたい共和党勢力」くらいしかない。これは弱い。そういう意味では先週末から今週初めにかけてのドル反発基調が続くかどうかは不明だ。ただし先週の木曜日以前と市場の環境が変わってきていることは間違いない。

《 Dow is approaching 10000 again 》

今週は既に始まっているので、短めに行きます。注目される指標としては、水曜日の米小売売上高などでしょうか。金曜日にミシガン消費者景気信頼感指数も面白いかも知れない。週明けのニューヨーク市場でもダウ平均で続伸したニューヨーク株価の行方も重要だ。ダウはニューヨークの月曜日の引けで「10000ドルまであと100ドルちょっと」のところまで上昇している。

今週の主な予定です。

10月13日(火)

日銀政策決定会合(14日まで)

コーン米 FRB 副議長が全米企業エコノミスト協会で講演

10月14日(水)

9月首都圏新規マンション販売

9月消費者態度指数

日銀総裁定例記者会見

米9月小売売上高

米8月企業在庫

10月15日(木)

米 FOMC 議事録公表
英 9 月雇用統計
中国 9 月貿易統計
8 月鉱工業生産(確報)・設備稼働率
日銀金融経済月報
米 9 月消費者物価
米 10 月 NY 連銀製造業景気指数
米 10 月フィラデルフィア連銀製造業景気指数

10月16日(金)

米 10 月ミシガン大学消費者信頼感指数
米 9 月鉱工業生産・設備稼働率

《 have a nice week 》

またまたの3連休はいかがでしたか。何回か外出しましたが、人出はまずまずでしたね。ただし遠出は避けました。高速道路が深夜まで大混雑していましたから。最近で一番人が動いたのは秋の五連休の時でしたが、今回は3連休。3連休は11月にもあります。

10月は日本やアメリカでもポストシーズンで野球が面白い。それにしても、レッドソックス(ボストン)のエンジェルス(LAA)に対する3連敗はびっくりしました。9回の表まで2点リードで勝っていましたから。当然パペルボン。しかし彼が打たれた。

逆にボストンにとっての同地区ライバルチームのヤンキースは3連勝。今このチームはバランスが良い。ポストシーズンの3試合で1、3、4、5、6番がホームランを打っている。2番のデーモンとカノーがちょっと調子が悪いくらい。エンジェルスとヤンキースの対戦は今週末からだと思いましたが、なかなか面白そう。

それにしても、アメリカの野球を見ていると審判の質の低さにはびっくりさせられる。明らかに入っているレフトフライがファールですからね。タッチを見る目も酷いし、あれだったら日本の審判の方がよほど良い。そのうち日本がアメリカに審判を派遣できるかも知れない。一部の監督の投手の使い方にも、「あら」というのが多い。

一つ「これは良いことだ」と思ったのは、ヤンキースとツインズの試合で観客が一人フィールドに乱入してきたとき。日本のテレビだとずっと追っていたでしょうが、アメリカのテレビは最初数秒この乱入男がセンターに向かって走っていくのを写しましたが、あとはもう一回彼を映しただけ。あとは基本的には観客とか選手の表情を追っていたこと。これは長々と乱入男を写すと、彼を英雄にしてしまい、また同じ事をする輩が出てくるからです。「哲学があるな」と思いました。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記

したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》